

鹿角ゼロカーボンラジオ Nice Action! 第12回（12月31日（火）放送分）の概要

今回は、J-クレジットなどでも売買される色々な環境価値のうち森林以外の農業系のものについて紹介します。

農業となると鹿角にはたくさんの価値としての可能性がありそうな気がします。

農業の営みの中で生み出される地球温暖化に資する環境価値には、色々なものがあります。代表的なものは、林業に係るものですが、他にも、例えば田んぼの中干しに係るものとか、炭を土に埋めて肥料にするといったものもあります。

鹿角は農業が盛んなので、こうした取り組みを紹介してみます。

土づくりが環境価値に関わってくるんですか？ どんな仕組みなんでしょう？

まず、田んぼの中干しです。

水田の水の下の土の部分では、酸素が少ない環境なのでメタンという物質が多く作られます。このメタンというのは、二酸化炭素よりも温暖化への影響が20倍以上もあり、大気中に放出されることを防ぎたいものです。ところが、水田では、稲を通して地中から大気中に放出されてしまっています。

これを防ぐには、田んぼに水を張らない期間を延ばして、空気中の酸素と土とを、より長い時間ふれあうようにすることが有効なのです。

ということで、田んぼの中干し期間を延長することを、温暖化対策になる活動と認め、その活動によるメタンの削減量を証書化して、売買するという活動が始まっています。

この手法は日本だけでなく海外へも広められたらいいですね。温暖化対策、メタン削減ひとつの手段として世界的な取り組みになれそうです。

さすがです。そのとおりです。すでに東南アジアでも実施しようとしていると聞いています。

もうひとつは、木材など有機物から作る炭、バイオ炭の活用です。

バイオ炭を農地に埋めて、土壌改良に活用するとともに、炭に含まれる炭素を土の中にとどめ、その結果として空気中へ排出される二酸化炭素を減らすというものです。

これは、作物の生産を促進するのに有効なバイオ炭を作ることが重要で、しかもそれを本来なら廃棄されるような材料から作ることができると、農業面からも地球温暖化対策面からも有効なものとなり、現在ベンチャー企業などが、こうした炭を作り農家さんに販売するようなビジネスを始めています。そして、その結果として生じる環境価値を証書化して売るといったこともやっているようです。

なるほど。J-クレジットは今までなかった新しい仕事も生み出しているんですね。

はい。これらの活動は、鹿角市の農地でも実施できる可能性があるもので、興味深いなと思っています。

こういった活動がうまく進むと、農家さんも収入が増えて経営が安定するし、地球温暖化対策にも貢献するので、「鹿角の地域が元気になるような取り組み」となります。

昔からの知恵も大切にしつつ、そこに最新の技術や情報が加わることで、環境価値はさらに高まり収入増加につながっていく。地域が元気になるってことが身近にわかりやすい事例ですね。

最後にこれは鹿角市で直接実施できるものではないのですが、海草など水中の植物が吸収し固定化する炭素を、環境価値として証書化し、売買するような活動も始まっています。

地球温暖化対策の取り組みには、色々なものがあるということがわかりますね。

新しい可能性を見つけたり、昔からそばにあったけれど気づいていなかった価値を再発見したりすることができる。これも地球温暖化対策をすることで得られるメリットのひとつかもしれません。